

## 場所



## 基本情報

R2.7.1現在

- 人口：66,751人 ■世帯数：27,980世帯
- 面積：667.93km<sup>2</sup>（人口密度 99.9人/km<sup>2</sup>）
- 主な地域内の移動手段：  
自家用車、バス、ぐるっとタクシー

## 特徴

## 地理・交通

車：高速道路利用で、東京から150分、名古屋から120分、大阪から270分それぞれへ高速バスが運行しておりアクセス抜群！

気候  
(冬の様子)

- 雪はほぼ積もりません。降っても年に2～3回、積もっても5cm～10cm程
- それでも路面凍結の心配あり。車を持つならスタッドレスタイヤ必須！

## 名物

- 伊那名物と言えば『ローメン』『ゆるきゃん△』でも紹介されました！
- 日本三大桜の名称『高遠城址公園』桜の雲海の中にあるような幻想的空間
- 伊那市は『信州そば発祥の地』美味しいお蕎麦屋さんも沢山！

## PRポイント

- 面積の82%が森林＝グアム島の面積に匹敵するほど、自然豊かなまち
- 「やまほいく」や「通知表の無い学校」などユニークな子育て環境あり
- 2021年度は伊那市×コンパクト農ライフ塾『INASTA』を開催！

## 移住の取組

## 移住支援制度

- 田舎暮らしモデル地域新築等補助金（最大150万円）
- 空き家バンク利用促進補助金（最大75万円）
- 田舎暮らしモデルハウス（最長3泊4日）、移住体験住宅（最長1ヶ月）

## 担当からのメッセージ

- 移住のお悩みやお考えなどお聞かせください！
- 移住に関するメリットだけでなく、デメリットについてもお伝えします。

## 【移住定住について】伊那市役所企画部地域創造課人口増推進係

電話：0265-78-4111（内線2155、2252）

E-mail：j kz@inacity.jp

## 連絡先

## 【就農について】伊那市役所農林部農政課農業振興係

電話：0265-78-4111（内線2412、2413）

E-mail：noi@inacity.jp



# 伊那市の農業

自然に恵まれた伊那市では、昔から「米どころ」として、稲作を主体とした農業がおこなわれてきました。現在は、稲作に加えて野菜・花き・果樹・畜産・きのこなど様々な作物を生産する複合的な農業が行われています。

また、収穫した農産物を加工することで付加価値をつけて販売する6次産業の取組も行われています。

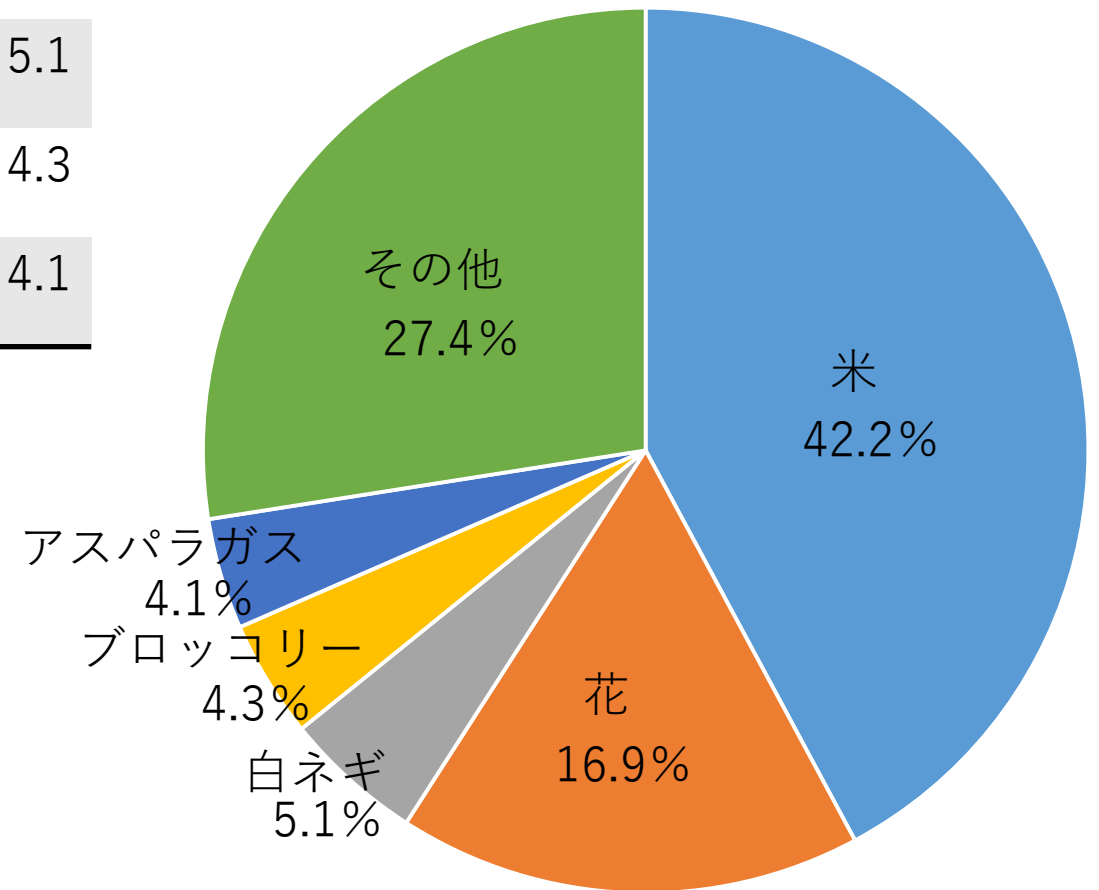
さらに近年では、生産条件の不利な中山間地域における農作業の省力化、効率化及び生産性の向上を目的としてスマート農業技術の推進にも取り組んでいます。



# 伊那市農産物販売額

JA上伊那資料 平成30年実績による

順位	作物名	販売額	構成比 (%)
1	米	19億8,762万円	42.2
2	花	7億9,864万円	16.9
3	白ネギ	2億3,945万円	5.1
4	ブロッコリー	2億222万円	4.3
5	アスパラガス	1億9,102万円	4.1





## 米

赤石山脈（南アルプス）と木曾山脈（中央アルプス）に囲まれた伊那市では、清らかで豊かな雪解け水を利用した水稻栽培が盛んにおこなわれてきました。

内陸性気候であり、夏は朝夕が涼しく、昼と夜の温度差が大きいことから、デンプンを多く含み、粒に張りがあるおいしいお米ができます。稲の病気や害虫の発生が少ないため、農薬の使用が少ないことも特徴です。



## 花

アルストロメリアとトルコギキョウは、全国有数の生産地です。美しく咲かせるための栽培技術や出荷輸送技術を研究開発した結果、全国各地に出荷できるようになりました。特にアルストロメリアは、全国で出荷されたうち約1割が伊那市で栽培されたものでした（平成30年）。



◀アルストロメリア



トルコギキョウ▶

## 野菜

アスパラガス、ブロッコリー、白ネギなど地域の気候に合い品質の良いものが収穫できる様々な野菜を生産しています。

### ○アスパラガス

長野県は全国トップクラスの一大生産地です。伊那市を含む上伊那では雨よけハウスを利用した半促成栽培が中心です。



### ○ブロッコリー

出荷時期は6～7月（春作型）と9～10月（秋作型）です。在圃期間（定植～収穫まで）が80日前後と短いことも特徴です。

### ○白ネギ

4～6月に定植、7～12月にかけて収穫するのが一般的です。収穫適期の幅が広く多品目との労力競合を避けながら収穫することが可能です。

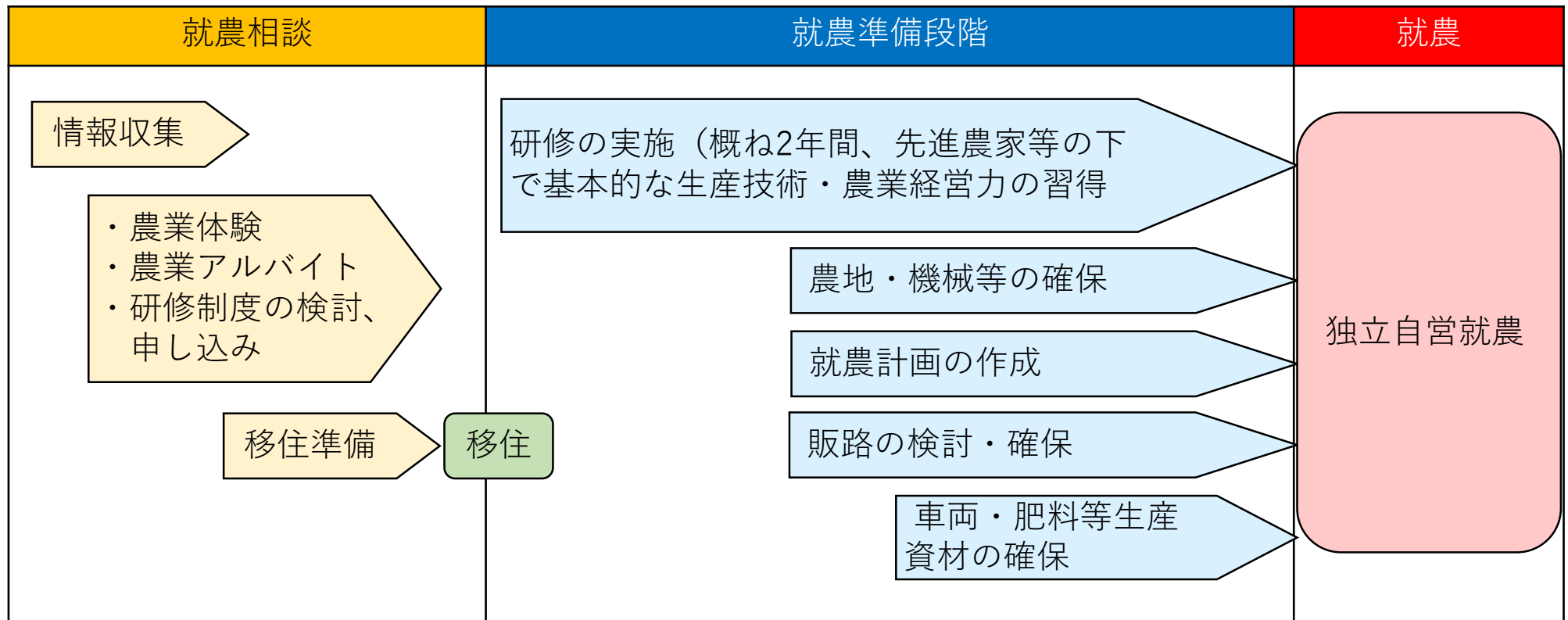


## 果樹

ふじ・つがるを中心とするりんご、南水・二十世紀などの日本なしの栽培には昼と夜の寒暖差の大きい内陸性気候が適しています。寒暖差が大きいと糖度が高くなり甘くておいしい果物が収穫できます。近年はイチゴの販売額が増えています。



# 新規就農（独立自営就農）までの一般的な流れ



農業未経験から専業での農業経営を目指す場合、2年程度生産技術や農業経営について研修を受けていただくのが一般的です。主な研修制度としては、県農業大学校実践経営者コース、県新規就農里親研修、JA上伊那インターン研修などがあります。いずれの制度も研修の開始は4月です。



## 新規就農に関する支援等

### ○就農相談をお受けしています



伊那市では、随時窓口・電話での相談をお受けしているほか、概ね隔月で県・JA・市合同での個別相談会を実施しています。オンラインでの相談にも対応しています。

また、年に2~3回東京・大阪等で開催される外部の相談会へ出展（オンライン含む）し、就農に関する相談をお受けしています。

### ○関係機関と協力して、就農前後を通じて総合的にサポートします



市内農業関連機関等で構成する農業振興センターや県上伊那農業農村支援センター、JA上伊那等の関係機関と協力し、研修の実施・就農計画の作成・農地等の取得・各種補助制度の利用等生活や営農に必要なサポート体制づくりを進めています。

### ○伊那市に移住・半移住し農に関わる田舎暮らしを目指す方向けの新たなプログラムが始動



全国の先進的な農家や各分野の専門家、伊那暮らしのキーパーソン等を講師とする15回のオンライン講座と1泊2日の実地研修を行う「INASTA in 伊那市」が今年度新たに始動しました。

短期間・少人数で小さな農家を営みビジネスとしても成功するテクニックやノウハウを集中的に学び、伊那での自分なりのアクションプランの完成を目指すプログラムです。

INASTA特設ページ <https://thecampus.jp/compactagri/inasta/>

※9/3開始のVol.1の申し込みは9/1まで。年度内に同様のプログラムを複数回実施予定です。

詳しくは  
特設ページを  
CHECK!

